入賞

「復興への道」

葛尾村立葛尾中学校１年
松本（マツモト）　晴樹（ハルキ）

東日本大震災から 11 年。地震が発生した日は、私が 1 歳の誕生日を迎える 14 日前の出来事だった。あとから聞いた話だが、まずは福島市の体育館に避難したらしい。そこでは支援物資で送られてきたパンを食べ、お風呂も布団もなく、段ボールを敷き、体を寄せ合い、暖を取っていたそうだ。体育館の中では百何十人という避難者で溢れ、衛生的にも良いものではなく心も体も休まらなかっただろう。今でも祖母は、「当時、支援物資を送ってくださった方々のおかげで私たちは今ここにいられるんだよ。」と何かあるたびに話してくれる。私たちは静岡、会津や三春と住むところを転々としなければならなかったそうだ。そんな辛い震災を乗り越えたからこそ今こうして強く生きている家族があるのだと思う。

私の家は「おふくろフーズ」という凍み餅を製造する会社を営んでいる。葛尾村の特産品である凍み餅を作っている。家庭科の授業で凍み餅を使ったメニューを開発することになった。そこで私は凍み餅をミキサーにかけ、ホットケーキミックスと混ぜ、ワッフルメーカーで焼き上げる「凍みモッフル」を提案した。チーズとかつお節を混ぜて食事用にしてみたり、アイスをトッピングし、スイーツ仕様にしてみたり、いろいろな「凍みモッフル」を作った。学校で試食してくださった先生方は「おいしい。」と笑顔いっぱいだった。生徒全員で試行錯誤しながら完成させた「凍みモッフル」をたくさんの人に届けたいと思った。こうして葛尾村のために何か考えられていることが復興への恩返しができているようで嬉しくなった。食を通して葛尾村をアピールすることが出来たら、観光客も葛尾村に遊びに来てくれるのではないか。そうなれば葛尾村にもっと活気が溢れるのではないか。家に帰ってからも祖母に開発メニューについて話していたら、わくわくした。葛尾村の将来を考えていかなければならないのは私たちだ。10 年後の村がどうなるかは私たちの手にかかっている。

当時 1 歳だった私も中学 1 年生になった。震災についての話は家族から聞いたり、伝承館で学んだりしたが、悲惨な震災を信じられないのが本音だ。地震や津波で亡くなった方は 22000 人を超える。県内では 1600 人を超えている。想像もつかない大震災。経験した方々が高齢になり、語り継ぐことが難しくなっていく。私たちが伝え聞いたことを後世に残すことも大切な使命だ。これからどうやって村を盛り上げていくか、震災を風化させないかが大切なポイントだと思う。大勢の方々からの支援を受け、私たちは大きくなった。知らないところでも数えきれないほどのサポートを受けているし、今でも応援してくれている方々が全国各地にたくさんいる。自分で物事を判断し、理解できるようになった今だからこそ葛尾村のこれからの復興について真剣に考えていきたい。村の特産物を使ったメニューは復興交流館「あぜりあ」にレシピ付きで紹介した。私たちが考えた「凍みモッフル」が葛尾の名物スイーツになるように発信していきたい。